

釧路南ロータリークラブ会報

第39回 例会報告 2013.4.26 通算1487回

・点 鐘 高橋副会長代行

・会 長 挨拶 高橋副会長代行

・ロ - タリ - ソング
「手に手つないで」



ソングリーダー 福井 克美会員



本日は、森江会長・長江会員・工藤ゆかり会員・佐藤了会員が韓国友好クラブ RI3590 地区新晋州（セイチンジュウ）RC 会員と居冒（コチャン）の地区大会参加の為、訪問しています。

私自身、何度も韓国は行ってますが、晋州には2011年6月、新晋州 RC との友好クラブ調印式に、釧路南 RC より長倉会員・木内会員・菅井会員・佐藤了会員と共に訪問しています。

又、2012年6月23日当クラブ30周年記念式典には、イ・イヌ、ユン・ホンシユク、チュウ・ジンマン、イ・ガンムン各会員が出席しています。今後とも友好の輪を広げながら、皆さんも機会があれば是非、訪問してみてください。

本日のプログラムは、会員卓話です。この後、発表会員の方宜しく願います。

・入 会 記 念 祝
佐野 実会員 H10. 5. 1 (15年目)

・誕 生 祝
上川原 昭会員 S44. 5. 1 (44歳)



・幹 事 報 告 次週報告します。

・本日のプログラム

「 会員ミニ卓話 」

担当 会報委員会

◆前田会員



今日は、自分のライフワークでもある読書についてお話をさせていただきます。

読書好きとはいえ、学生の時は殆ど本は読んでいませんでした。

20代前半の頃、景山民夫の小説を読んでから活字の世界に嵌ったのですが、「虎口からの脱出」という小説が非常に秀逸で吉川栄治文学新人賞を受賞し、そして直木賞候補にもなった作品なんです。この作家の世界観に共感し、奥深い想像力を描き出す活字の世界に引き込まれて行きました。必然的にその小説の書き手に興味を持ち始め、作者の作品を全て読破していくわけです。そして想像力を膨らませ自分の世界を創る、頭の中では映画を製作しているようで、もっともっと本を読みたいと思うようになっていきました。

「映画より小説の方が面白い」と良く聞きますが、その通りだと思います。だって既に頭の中では、自分仕様の映画が完成しているのですから。

職業柄、物理学や科学の分野を少々勉強してきました。そのせいかSFものに興味がありました。映画のようなCGを駆使した派手な映像とかでは無く、論理的に、かつ認知された数式を組み込ませ、あたかもタイムマシンが存在するみたいな、そんな物語が本の世界には無数にあります。勿論映画となった作品も多数ありますが、やはり小説にはかないません。例えば皆さんも知っている、小松左京の「日本沈没」は映画にもなっていますが、パニック映画の感がありますが、分野はSF小説だと思います。同

じ作者で、宇宙を舞台にした「虚無回廊」なんて小説は理解出来ないが面白い。まるで、2001年宇宙の旅を連想させる素晴らしい物語であり、小説家としても、科学者としても、大好きな作家の一人であります。後、ショートショートでお馴染みの星新一も実はSF作家だったんですね。一昔前のSF小説を見てみると、今現在その通りの世の中になっている事が多々あります。単なる空想だけではなく、学問において確証があったのか、人間の想像に技術が勝ったのかは解りませんが、これがSF小説の醍醐味の一つと思っています。

そんななか、20代半ばに人生観を変える小説に出会いました。筆者と言った方が良いでしょうね。高橋克彦の「総門谷」、「龍の柩」等です。奇想天外なストーリーではあるが何故か本当にそうなんじゃないだろうか、と信じてしまう、いや信じたいと思ってしまうほど実に様々な分野の知識を関連付けしながらストーリーを構築していく様は、圧巻につきま

す。日本、世界の歴史もさることながら、超古代文明の謎を紐解いて行く様は現代人とは思えません。更に浮世絵研究家であり、民俗学に精通してそれらをトータルして小説の題材とし、受賞した作品も数々あり、日本を知る意味では是非読んでもらいたい作品が多々あります。また、「炎立つ」や「北条時宗」などの歴史小説は、大河ドラマに採用されるなど、多種多様な才能を発揮している私の一番人気の作家であります。

数年前に誘われて高専の国文学の教授を中心とした読書会なるものに参加していますが、最初のお題目が「蟹工船」でありました。この辺りはまだ読破して感想を持てたのですが、その後の純文学、「挽歌」、「暗夜行路」、「仮面の告白」、「深い河」等のお題目には、読み進めていってもなんとも興味が沸かないのです。ただ、人間の内なるものは深淵であるということだけは理解出来ました。

最近のテレビドラマは面白くないと良く聞きますが、そんな中でヒットするドラマは殆ど漫画(コミック)が原作のようです。解るような気がします。なぜなら漫画のストーリーを構築する上で作者は相当な参考文献等を網羅し、読者の興味を引き寄せるため意外性のある展開、様々な知識をストーリーに反映し

ていき、時間をかけて練り込んでいきます。たかが漫画、されど漫画、そんな漫画達も私の大事な知識の泉であります。

私にとって本との出会いは、人との出会いと同じ様に、多くの学びを与えてくれるものであります。

◆阪根会員



南ロータリークラブ最年少今年で40歳になります。前厄に入りました阪根です。

まだ入会一年に満たない若輩者ですが本日は貴重なお時間をいただきました。

仕事以外とりわけ趣味など無い自分がロータリー活動以外で参加していることを今日は少々紹介させていただきます。

釧路の街が少しでも盛り上がれば・・・

釧路の街にもっと人が呼べたなら・・・

という思いから、活動しております『くしろザンギ推進協議会』です。

『くしろザンギ推進協議会』は「くしろザンギ」で釧路を元気にしたいと願う、応援団です。

釧路特有のザンギを、地元はもちろん、もっとたくさんの人々に食べて貰いたい！

いろいろなザンギを楽しんで欲しい！そんな思いの詰まったイベントや広報活動を行なっています。

「ザンギ」は、分かりやすく言えば「鶏の唐揚げ」です。

これは中国料理の「炸鶏（ザーチー、ザーギー、ジャーギー等と発音）」と同じもの。

では、なぜ釧路ではこれを「ザンギ」と呼ぶのでしょうか。

昭和35年、釧路市の末広歓楽街にある鶏料理店で「ザンギ」は誕生しました。

鶏の骨付き肉を唐揚げにして、ソースをつけて提供されていたメニューは、炸鶏（ザーギー）に『運（ン）』がつくようにと「ザンギ」と名付けられたのだそうです。

ちなみに、この鶏料理店は今もザンギ発祥の店として昔ながらの骨付きザンギを作り続けています。

今や「ザンギ」は道内各地で見られるようになりましたが、『くしろザンギ』は釧路だけのもの。

独自のタレをかけて提供される「ザンタレ」や、地元産の食材を使った「鮭ザンギ」「くじらザンギ」「鹿ザンギ」「たこザンギ」のように鶏ではないもの、さらに蕎麦粉を使った「そばザンギ」等々、そのレパートリーはまさに無限大です。

つまり、釧路では「ザンギ」は料理の名前であると同時に「唐揚げにしたもの」という意味を持っており、今も進化し続けているのです。

食べ物のお話のみになってしまいましたが・・・

今後も大好きな街・・・釧路に明るい話題を少しでも多く提供できればと思い日々活動していければと考えております。

諸先輩の皆様にも今後ともご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

本日は有難うございました。



◆ 次回のプログラム

5月3日（金）休会

5月10日（金）

「地区協議会報告」

会場 釧路東急イン

担当：次年度会長幹事

・ 点 鐘 高橋副会長

今週の会報担当：山本美穂会員